

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公表番号】特表2007-531777(P2007-531777A)

【公表日】平成19年11月8日(2007.11.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-043

【出願番号】特願2007-506691(P2007-506691)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/06 (2006.01)

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

A 6 1 K 47/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/107 (2006.01)

B 0 1 F 17/00 (2006.01)

B 0 1 F 17/02 (2006.01)

B 0 1 F 17/14 (2006.01)

B 0 1 F 17/28 (2006.01)

B 0 1 F 17/42 (2006.01)

B 0 1 F 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/06

A 6 1 K 8/37

A 6 1 K 47/14

A 6 1 K 9/107

B 0 1 F 17/00

B 0 1 F 17/02

B 0 1 F 17/14

B 0 1 F 17/28

B 0 1 F 17/42

B 0 1 F 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月19日(2008.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

ワックスペースの製剤は、当業者には長く知られており、特に、例えば坐薬、スティック形またはクリームおよびローション状の様々な化粧品組成物のような化粧品および医薬製剤や、コート紙および織物等に使用される。この目的のために、当業者は、数多くのワックス様物質およびそのような物質の混合物を使用することができる。これらの中には、例えば、最終製剤の感覚プロフィールに決定的な影響を及ぼすグリセリドおよび脂肪アルコールが含まれる。すなわち、グリセリドは皮膚にしばしば油を塗ったような／脂っぽい感覚を残す。脂肪アルコールは、白色残留物の形成を来し、これは、使用者にとって大きな難点となる。加えて、脂肪アルコールはしばしば保存中に粘度の著しい上昇を来たす。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

そこで、驚くべきことに、この問題が部分グリセリドと組み合わせたペンタエリスリトールまたはそのオリゴマーのエステルに基づく特定ワックス混合物によって解決できることが見出された。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

C_{16}/C_{18} 脂肪酸のペンタエリスリトールエステルは、例えば、ペンタエリスリトール1モル当り1.8~2.2モル、好ましくは1.9~2.1モルの、40~50wt%の C_{16} 脂肪酸と45~55wt%の C_{18} 脂肪酸とを含む脂肪酸混合物またはこれに相当する脂肪酸分布を有する原料混合物を使用して、以下の工程によって生産することができる：(a) エステル化を、溶媒の不存在下に不活性ガス雰囲気中で、180 ~ 250 の温度で実施し、(b) 生成される水を留去して、(c) 得られた反応混合物を、<1の酸価および145~158のOH価を有するまで真空中で攪拌し、(d) 未反応ペンタエリスリトールを濾去し、(e) 場合により過酸化水素による後処理を実施する。酸価およびOH価をモニタし、調整する方法は当業者には周知であるので、ここで詳細に説明する必要はない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

自己乳化型基剤

従って、本発明は、本発明のワックス混合物、およびそれに加えて、10より大きいHLB値を有するアニオン性または非イオン性乳化剤の群から選択される少なくとも1つの乳化剤(c)を含む自己乳化型基剤に関する。本発明に関して、「乳化剤」と「界面活性剤」という用語の間に相違はない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 3 】

10より大きいHLB値を有する特に適切な非イオン性乳化剤/界面活性剤の群は、

(1) 直鎖および分岐 C_{8-40} 脂肪アルコール、直鎖および分岐 C_{12-40} 脂肪酸、およびアルキル基内に8~15個の炭素原子を有するアルキルフェノールへのエチレンオキシドおよび/またはプロピレンオキシドの付加生成物；

(2) グリセロールへのエチレンオキシドおよび/またはプロピレンオキシドの付加生成物の $C_{12/18}$ 脂肪酸モノおよびジエステル；

(3) 飽和および不飽和 C_{6-22} 脂肪酸とそのエチレンオキシドおよび/またはプロピレンオキシド付加生成物のグリセロールモノおよびジエステル、およびソルビタンモノおよびジエステル；

(4) アルキル鎖内に8~22個の炭素原子を有するアルキルモノおよびオリゴグリコシド、およびそのエトキシ化類似体；

(5) ヒマシ油および / または硬化ヒマシ油へのエチレンオキシドおよび / またはプロピレンオキシドの付加生成物から選択される対応化合物を含む。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

自己乳化型基剤は、乳化剤と稠度を与えるワックスとの比が既に正確にバランスがとれているので、粘度安定なo/wエマルジョンを特に容易に調製することを可能にする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

本発明によれば、

(a) 20～60wt%の、本発明(請求項2～5のいずれかに記載)のペンタエリスリトール、ジペンタエリスリトールおよび / またはトリペンタエリスリトールの少なくとも1つのエステル、

(b) 20～60wt%の、本発明(請求項6～8のいずれかに記載)の少なくとも1つの部分グリセリドおよび

(c) 5～30wt%、好ましくは10～30wt%の、10より高いHLB値を有するアニオン性または非イオン性乳化剤の群から選択される少なくとも1つの付加的な乳化剤を含み、自己乳化型混合物が20wt%未満の水を含む自己乳化型基剤を使用することが、特に好都合である。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

従って、本発明はまた、本発明による1～20wt%のワックス混合物、または本発明による1～20wt%の自己乳化型基剤を含有する化粧品または医薬製剤に関する。使用する濃度は、いずれの場合も2～10wt%である。本発明はまた、エマルジョン、特に水中油型エマルジョンにおいて粘度を増強するための、本発明のワックス混合物の使用、およびエマルジョン、特に水中油型エマルジョンにおいて粘度を増強するための、本発明の自己乳化型混合物の使用に関する。本発明はまた、化粧品エマルジョンまたは医薬エマルジョンにおける稠度因子としての、本発明のワックス混合物、または本発明の自己乳化型混合物の使用に関する。使用する濃度によって、ローションまたはクリームが形成され、それらは1 μ m～20 μ m、好ましくは5 μ m～10 μ mの平均粒径を有することを特徴とする。このようなエマルジョンの粘度は、2,000mPa～500,000mPa、好ましくは10,000mPa～200,000mPaの範囲内である。粘度は、10r.p.m.のスピンデル5または6(ローションに関しては60,000mPaまで)またはヘリパスを備えたスピンデルHT(クリームに関しては>60,000mPa)を使用して、23 でブルックフィールドRVFによって測定したものである。